

周南公立大学の総合教育について

総合教育部長 渡部 明

総合教育とは

一般に大学のカリキュラムは、各専門領域の専門教育といわれる教養教育で構成されている。専門教育では、設定された領域で専門的知識・技能を学び、教養教育では、特定の領域に限定されず、社会や人間等に関する諸事象を幅広く学ぶ。このようにアプローチが異なる教育で構成されているのである。

平成3年の大学設置基準の改正までは、教養教育（当時は「一般教育」という呼称）は人文科学・社会科学・自然科学の3領域ごとに最低履修単位数が規定されていた。しかし、この改正で規定が撤廃され、各大学が開設科目や単位数を自由に設定することになった。

その後、教養教育の担当組織の解体や、教養教育の時間数削減など、多くの大学で教養教育を軽視する傾向が顕著になった。つまり、専門教育は、領域ごとに体系化され、研究との関連も明確でありこと。さらに社会の急速な変化を受けて、専門的な知識・スキルを修得した人材に対する要求も年々高まっていること。このような理由もあり、学部専門教育が重視される結果を招いた。しかし、専門教育偏重の弊害が各方面から指摘されるに至り、文部科学省も教養教育見直しの方針を示すようになった。これを受け、各大学は教養教育の改革への取り組みが始まった。

そもそも、高い専門性を持ち社会の各分野で活躍できる人材、広い視野と批判的精神を持ち自己と社会に責任を担える人材の養成が大学の責務である。専門教育と教養教育は、大学教育の両輪として共にその責務を担うはずである。相互補完的に、両者の内容を関連づけ深化させることが大学教育の基本でありトータルな人材育成のためにも必要である。このような意味での教養教育を改めて総合教育と位置付けたい。

現代社会で広く求められる基礎的な教養を身につけるという意味では確かに「教養教育」であろう。しかし、その修得した広く豊かな知識と、構築した基礎力をもって、物事を総合的に判断し得る能力を養い、進展してやまない科学・技術や社会に対応し、貢献することのできる人材の育成を図るという意味では「総合教育」という名称が相応しいと思われる。とりわけ、「総合知」が求められる現在、総合教育の果たす役割も大きいものとなるだろう。

本学の総合教育の特徴 〜ウェルビーイングを核とした教育〜

周南公立大学では4年間かけて、学生が自己や地域社会の Well-being 向上に貢献できる資質・能力を育むことを目指している。言い換えれば、自己と社会を豊かにするための学びを大学側が提供するということである。最近、巷間流布している Well-being を中核とした教育を本学は目指しているのである。Well-being とはまだ馴染みがない言葉かもしれないが、一言で言えば、「よい状態」のことだと言えよう。しかし、ここでの「よい状態」とは、心身の健康や金銭的余裕といった個人の状態だけでなく、他者や周囲の環境との関係性も含めた包括的なものを意味している。すなわち「みんな違って、みんないい、そしてみんなでよくなろう」という社会性を帯びているのである。これが本学では全ての学びの核となっている。

また、全ての学部学科に共通する総合教育では、幅広い教養を学ぶだけでなく、大学での学びに必要な基礎的な知識・技能、語学力などのコミュニケーション能力、地域を軸とした課題発見・解決のための考え方や方法を学び、自らの成長と価値創造に結び付けている。

これを本学の総合教育では6つの力を伸ばす教育と位置付けている。

すなわち、Well-being を実現する力、キャリアを考える力、人間力 (EQ 力)、グローバルな社会を生きる力、自ら考え、探究し、創造する力、情報活用能力である。これらの力を効果的に伸ばすための教育が本学の特色ある教育につながっている。

周南公立大学ではいくつかの特徴ある教育を行っているが、まず挙げられるのは、地域との連携のもとで地域の課題を発見し解決法を見出すことに挑戦する Community Based Learning (CBL) である。CBL によって、実践的な経験をもとにしたキャリア形成、コミュニティとの連携と人的ネットワークの構築、地域の複合的な課題に取り組む学際的な学習の促進、地域の課題解決に貢献することを通じた自己肯定感や地域の Well-being 実現に対する使命感の醸成を目指す。

また、これに連動して、インターンシップも必修である。地域を知り、地域企業を知り、そこで働く人々の魅力を知る機会をふんだんに提供している。実社会での学びは卒業生が社会で活躍するときに必ず役立つと確信している。世界は無数の「地域」が集まって成り立っており、地域について深く学ぶことは世界を理解する第一歩となるのだ。この本学における地域貢献の取り組みは、全国の約 750 大学を対象にした大学地域貢献度ランキング (日本経済新聞社、2023 年) において全国で 14 位、学生収容定員 2,000 名以下の小規模大学では連続して全国 1 位になるなど高い評価を得ている。

このような教育を「人間形成と個性伸長」、「地域の持続的発展と価値創造」というカテゴリーで本学ではまとめている。

さらに、周南公立大学では、課題解決の基盤となる人間力育成のための EQ (emotional intelligence quotient : 心の知能指数と訳され、自分の感情をコントロールし、対人関係を良好に発展させる、キャリア形成にもつながる力) 教育、そしてもちろんリテラシー・リベラルアーツなどのいわゆる「教養教育」にも力を入れている。それは Well-being に関する全学的教育や実践的な英語力をつける教育、そしてこれからの社会に必要な不可欠である数理・データサイエンス・AI 教育 (政府認定の教育プログラム) など多岐にわたる。

これらの総体が本学の教育理念とミッションを実現するための総合教育である。とかく、高等教育機関としての大学では学部での専門教育が中心と思われがちだが、その基礎となるスキルや社会の中で生きる力、地域・社会に貢献し価値創造する力を育む教育プログラムも極めて重要であることは論を俟たない。それをもつばら担うのが総合教育といえよう。